

## 7 か国財務大臣・中央銀行総裁会議声明のポイント

[2008年4月11日]

世界経済や国際金融システムに対する課題が継続する渦中において、我々は、本日、会合を持った。

世界経済は、引き続き、困難な時期に直面している。我々の経済が長期的には回復力を有していることを確信しているが、短期的な世界経済見通しは悪化した。我々の経済の状況は各々異なるが、現下の米国住宅市場の低迷、国際金融市場の緊張状態、原油及び一次産品価格高騰の国際的影響、そしてその結果としてのインフレ圧力によって、景気見通しに対する下方リスクが残存している。新興市場国の経済成長が明るい点ではあるが、これらの国々も同様に世界的な圧力からの影響は免れ得ない。

国際金融市場の混乱はいまだにチャレンジングであり、我々が想定したよりも長引いている。経済見通しが悪化する中で、金融市場は、リスクの再評価や大きなレバレッジの解消、カウンターパーティリスクの管理、バランスシート調整、資本増強、そして主要市場の流動性や機能の改善といった、相互に関連する問題に直面している。我々は、仕組み商品へのエクスポージャーや関連リスクの開示を改善し、資本を大幅に増強しようとする多くの金融機関の努力を歓迎する。

我々は、持続的な成長を回復し、物価の安定を維持し、金融システムの円滑で秩序だった機能を確保するために引き続き緊密に協働する我々の強いコミットメントを再確認した。我々は、資金調達市場の流動性減少に対応するための主要中央銀行による協調を歓迎し、国際金融市場の混乱に対応するための協調行動の重要性を認識する。特に、いくつかの中央銀行において最近とられた、貸付制度へのアクセスの拡大と受入担保の範囲拡大のための措置は、金融機関に流動性を供給し、市場機能の改善を支えることに寄与している。さらに、我々は、金融・財政政策を含め、経済活動を支援し、物価の安定を確保するためにとられたその他の措置を歓迎する。我々は、必要に応じて、個別にあるいは共同して、それぞれの国内事情と統合的な措置を講じることに引き続きコミットしている。

我々は、強固かつ安定した国際金融システムが我々の共通の利益であることを再確認する。前回の会合以降、主要通貨において時として急激な変動があり、我々はこれらが経済及び金融の安定へ与え得る影響について懸念している。我々は、引き続き為替市場をよく注視し、適切に協力する。我々は、人民元の柔軟性を向上させるとの中国の方針を歓迎しているが、経常収支黒字が増加し、国内インフレが上昇していることに鑑み、人民元の実効為替レートのより速いペースでの増価を促す。

昨年秋に、我々は金融安定化フォーラム（FSF）に対して、金融市場の混乱を引き起こしている国際金融システムにおける要因と脆弱性を特定する報告の提出を要請した。我々は、市場と制度の抵抗力を強化するための詳細な勧告を盛り込んだ報告をとりまとめたことについて、ドラギ FSF 議長、FSF メンバーに対して感謝。

我々 G 7 は、報告を強く支持し、勧告を実施することにコミット。FSF 報告の迅速な実行は、国際金融システムの抵抗力を長期的に強化するだけでなく、信認の維持と市場機能の向上を支援するであろう。

FSF 報告は、5 つの主要な分野について、具体的かつ充実した勧告を行っている。我々は、その中で 100 日以内に実行しなければならない優先順位の高い勧告を以下に特定した。

- ・ 金融機関は、複雑で流動性のない商品に関し、リスクへのエクスポージャー、償却及び公正価格（フェア・バリュー）の見積りを徹底的かつ即時に情報開示すべき。我々は、金融機関に対し、次回の中間期決算において、FSF 報告に示された先進的な事例に倣って、リスクに関するしっかりとした情報開示を行うよう強く促す。
- ・ 国際会計基準審議会（IASB）及びその他の基準設定機関は、オフバランス関連会社に対する会計及び情報開示の基準を改善するとともに、特に市場が緊張下にある場合の金融商品の評価について、時価評価会計のガイダンスを向上させるため、迅速に行動を開始すべき。
- ・ 金融機関は、当局の監督を受けつつ、厳格なストレス・テストを含め、リスク管理の慣行を強化すべき。金融機関はまた、必要に応じ、その自己資本を強化すべき。
- ・ 2008 年 7 月までに、バーゼル委員会は、流動性リスク管理に関する改訂ガイドラインを発出し、証券監督者国際機構（IOSCO）は、格付会社のための行動規範を改訂すべき。

我々は、FSF の以下の勧告を 2008 年末までに実施することを支持する。

- ・ 資本、流動性、リスク管理についての健全性監督強化  
バーゼル II の自己資本規制を適時に実施する必要。バーゼル委員会は、複雑な仕組み商品及びオフバランス関連会社に関して所要自己資本を引き上げ、追加的なストレス・テストを要求し、モニタリングを強化すべき。
- ・ 透明性及び価格評価の向上  
バーゼル委員会は、オフバランス関連会社、証券化商品へのエクスポージャー、流動性コミットメントに対する情報開示を銀行が強化するために、銀行の価格付けプロセスの監督上の評価を改善する更なる指針を発出すべき。
- ・ 格付けの役割及び利用法の変化  
投資家は、格付けの利用に際しデュー・ディリジェンスを改善する必要。格付会社は、その業務における潜在的な利益相反の問題に対処し、仕組み商品に対する格付けを債券の格付けと明確に区別し、格付手法の情報開示を改善し、証券化商品のオリジネーター・仲介者・証券発行者により提供される情報の質を評価するため、（改訂された IOSCO の行動規範と統合的な）実効ある行動をとるべき。
- ・ リスクに対する当局の対応の強化  
監督当局及び中央銀行は、金融の安定に対するリスクの評価を含めて、協力と情報交換を更に強化すべき。国際的に活動する大手金融機関毎に、監督当局で

構成される国際的なグループを設置することが重要。また、市場監視当局は、詐欺、市場操作及び相場操縦について調査し処罰するために、協力して迅速に行動すべき。

- ・ 金融システム危機への対応強化

中央銀行は、金融システムが緊張している期間、効果的に流動性を供給できる必要があり、当局は、体力の低下した銀行に国内外で対処するための枠組みを見直し、必要に応じ強化すべき。

我々は、FSF 及びその作業部会に対し、報告書の勧告の実施を積極的にモニターするよう依頼する。バーゼル委員会、IOSCO、IASB、ジョイント・フォーラムを含む FSF 参加機関が、2008 年末までに作業を終えるよう作業計画を加速させること、また、FSF の勧告が十分かつ効果的に実施されることが重要。我々は、6 月の大阪会合におけるアップデート及び秋の G 7 会合における包括的なフォローアップの報告を期待。我々は、金融の安定に対する主要なリスクについて早期に警告する能力を高める、FSF と IMF の間の協力の強化を歓迎。

我々は、民間セクター参加者が金融システムをより良く機能させることに資する提案の作成に努力していることを歓迎。

現在の金融市場の混乱は、金融セクターの適切な規制枠組みに関する広汎な政策問題も惹起した。我々は、金融システムが将来可能な限り効率的かつ安定的であることを確保するために変更が必要かどうか検討するため、規制枠組みを見直す重要性を再確認した。

我々は、国際金融の安定を確保するための IMF の重要な役割を再確認。この観点から、IMF 改革に関する顕著な進展を支持。

- ・ クォータとボイスの改革についての合意を歓迎。これは、低所得国の発言力を増大させつつ、新興市場国を中心とするダイナミックな国々の世界経済における比重が拡大していることを捉えた重要な一歩。
- ・ 為替レートを含むサーベイランスの新しい枠組みの重要性を再確認し、着実かつ公平な適用を慫慂。
- ・ 年間 1 億ドルの歳出削減を含む、持続可能な IMF 財政への進捗を歓迎。予算規律の維持が必要。保有金の一部の売却収入による投資プールの創設を含む新たな歳入源を支持。

これらの重要な改革は、IMF の正統性、実効性、信頼性を向上させるであろう。

開かれた貿易・投資体制を維持することは、世界経済の繁栄を実現し、保護主義と闘う上で決定的に重要。ドーハ開発ラウンドの成功裡の妥結が喫緊に必要なことを強調。我々はまた、投資の開放性に関する OECD の作業、及び、10 月の総会までに SWF の最良慣行(ベスト・プラクティス)を策定するとの IMF のコミットメントを賞賛。アブダビ、シンガポール、米国により提示された政策原則は、これらのプロセスに対する有益なインプットとなろう。